

今週のメニュー

■トピックス

◇欧州発、木材のようで木材でないもみ殻混練り塩ビ複合材

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その12） ー富士山と鯉のぼりー

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

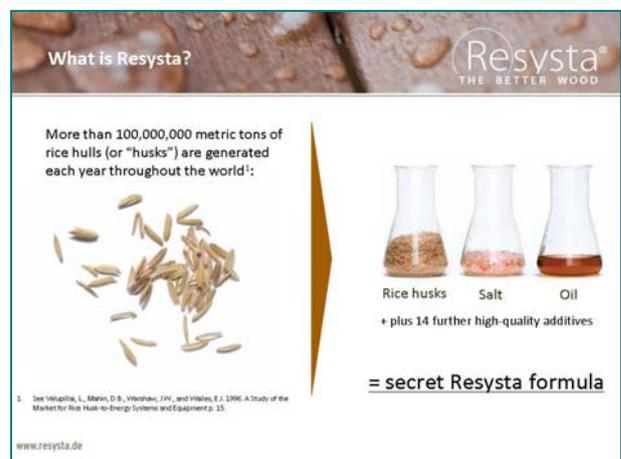
■トピックス

◇欧州発、木材のようで木材でないもみ殻混練り塩ビ複合材

欧州塩ビ製造者協議会（ECVM）と欧州で塩ビのリサイクルに取り組んでいる VinylPlus という業界団体は、毎年、欧州各地で Vinyl Sustainability Forum を共催しています。今年 は、5月の初め、ローマで行われましたが、その中でドイツから興味あるデッキやサイデ ィングに適した塩ビ複合材の紹介がありました。ドイツのある会社のプレゼンテーション によれば、もみ殻と塩ビを練りこんだ複合材料が、建築材料として注目されているといっ ます。世界的にみて熱帯雨林が減少する一方で、木材の需要は伸びその価格が上昇する と見込まれる中、世界中で年間1億トン生産されるという穀物のもみ殻廃棄物に目をつけ て開発されたのが、“Resysta”と呼ばれる複合材料です。

塩ビなどプラスチックと木粉を練りこんだ複合材は、木材・プラスチック再生複合材として JIS 規格があるのはご存知の通りです。JIS 規格によれば、木質原料として、端材、残材のほか草木系植物由来原料が含まれています。また、エコマーク商品類型としても木材・プラスチック再生複合材の中で、もみ殻は廃植物繊維として定義されており、その利用が想定されています。余談ですが、コメが主食である日本でも、大量に発生したもみ殻は、廃棄されるばかりでなくその利用も考えられています。燃料として燃やされた後の焼却灰は、珪素が多いことからコンクリートの混和材として利用されるのもそのひとつです。

この Resysta ブランドが生まれたのは、歴史が浅く 2009 年のことです。塩ビとの複合材料ではあるものの、木質原料として木粉ではなくもみ殻だけを使っていることが、開発者たちが Wood Plastic Composite (WPC) ではないと主張している所以です。



Vinyl Sustainability Forum
プレゼン資料より（以下同じ）



その成形のためには 14 種類の特種な添加剤を添加しているようですが、残念ながらその成分については企業秘密となっています。WPCにおいて、木粉に含まれるリグニンが湿気吸収などの要因になるそうですが、もみ殻はリグニンを含まず、珪素を多く含むということで一般の WPC よりも水周りに強いという特徴につながっているようです。

その開発された複合材料は、切断したり、研磨したり、穴を空けたり、塗料を塗ったり、接着できるという木材と同じような加工性を有しながら、水を吸わないため膨張やひび割れがなく、木材よりも耐久性に優れた材料だとしています。その他、使用後の製品は 100% リサイクルが可能であることは持続可能性の面でも利点ですが、耐紫外線性に優れていたたり、塩ビを含むため難燃性（ASTM E84 テストにおいて Class A）も高いという特徴もあります。加工面でも、“Resysta” は押出成形ができることから、デッキ材、サイディング、窓枠、ドア、エクステリア材、水周りの床材等いろいろな用途に使用されています。施工も簡単で、その様子を動画で見ることができます。

<http://www.youtube.com/watch?v=T5Nily0-0vo>

素材の環境特性ばかりでなく、デザイン性にも特徴が活かせることから、建築関係やデザイン関係において、“Innovation” material、“Sustainable Investment”、“Sustainability”、“Product Design” などのカテゴリーで、“Resysta” は世界のいろいろな賞を受賞しています。メーカーでは、成長が著しいグリーンビルディング市場でも、今後は注目されるものと期待しています。



■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その12） ー富士山と鯉のぼりー

関東学院大学 織 朱實

少し時期外れになってしまいましたが、五月の日本のお祭りといえば、やはり端午の節句、鯉のぼりではないでしょうか。春先から子どもの日にかけて、全国津々浦々で行われているイベントの発祥は、高知県の四万十川沿いの旧十和村だそうです。「大きくなったので、鯉のぼりを家で揚げてくれない～」という子供たちの残念そうな声に、地元のお兄さんたちが「それでは！俺たちが！」と鯉のぼりの川渡しを始めたそうです。最初は 50 匹ほどだった鯉のぼりも 今では 500 匹ほどに。四万十川の春の風物詩になっています。昨年のこのお祭りシリーズでは、[群馬県館林の「世界一鯉のぼりの里まつり」](#)の写真をアップしました。鶴生田川の上を、5000 匹を超える鯉のぼりが風に泳いでいる様子は壮観で、平成 17 年にはギネス記録にも認定されたものでした。

さて、今年はどうしましょうか？という
ことで、JR の車内誌
で見かけて「いつか見
たい！」と思った富士
山を背に泳ぐ鯉のぼり
を、ゴールデンウィーク
初日に撮りに行
ってきました。富士宮
市根原の国道 139 号
朝霧さわやかパーキ
ング前の高台に、世界
遺産登録された富士
山の麓、朝霧高原の薫
風を受けて鯉のぼりが
80 匹ほど気持ちよさ
そうに泳いでいるのを
発見！



今では、当たり前になっている鯉のぼりですが、そも
そも、鯉のぼりを揚げる風習は、いつくらいから始ま
ったのでしょうか？いくつかの本をあたってみると、江戸
時代武家屋敷から始まった風習だそうです。当初は男子が
生誕すると幟のぼりを揚げていたのが、中国の「急な滝を登り
切った鯉が竜になった」という故事にちな
んで、幟の代わりに、吹き流しに鯉の絵を
描くようになったそうです。吹き流しは、
戦国時代から、魔よけとして使われていた
もので、こちらの歴史は鯉のぼりより古い
ものです。



そんないわれもあつてか、「鯉のぼりでは、なにより
吹き流しが重要なのですよ」と力説してくれたのは朝
霧高原の松下牧場の松下克己さん。もう 10 年以上も前
から、朝霧高原の小山で、5 月に鯉のぼりを揚げ続け
ているそうです。朝霧高原の鯉のぼりは 25 年ほど前、地
元の酪農家の有志の皆さんが、自宅や協力者から鯉の
ぼりを集め、18 本の支柱に渡したロープに結んで数匹
ずつ泳がせたのが始まりだそうです。有名になり、今
では全国から沢山の鯉のぼりが寄贈されているそう
です。

松下さんたちの拘りは、「吹き流しをきちんと揚げる
こと」。吹き流しは、五色で構成されていて、五行説（世

界は、木・火・土・金・水の5つの元素から構成されているという)を表し、古代中国の五行説を由来とするそうです。送られてくる鯉のぼりの吹き流しには、家紋がついているものもあり、鯉のぼりを揚げるだけでなく、きちんと吹き流しとセットにするとのこと。子供が生まれたことに早く神様に気が付いてもらって守って頂きたいという祈りの気持ちが込められた鯉のぼりと吹き流し。寄付してくださったお家の想いを感じながら、鯉のぼりを揚げています。

少しでも観光客を呼び込めればと、松下さんが地元酪農家の有志のみなさんと始められた鯉のぼり揚げ。25年の間に、風景もだいぶ変わってきたそうです。最初のころは、牛と富士山をバックに鯉のぼりが泳いでいたのが、酪農方法も変わり、牛の放牧がなくなったこと、25年の間に防風林が育ち、昔の様に風が通らなくなり、鯉のぼりが元気に泳ぐのが難しくなってきたこと、など。とはいえ、富士山をバックに青空を泳ぐ鯉のぼりの風景はやはり雄大！（風がないと、ししゃもみたいですけど。笑）。

この日も、ゴールデンウィークということもあり、たくさんカメラマンがパーキングエリアから撮影をしていました。そばで、鯉のぼりを揚げるのを拝見していましたが、鯉のぼりを揚げ続けるのは本当に大変な作業。自宅では、なかなかできなくなってきている中で、いつまでも富士山をバックに、朝霧高原の鯉は泳いでほしいと思います。



さて、もう一つ高いものと鯉のぼりということで、東京タワーと鯉のぼりの写真も撮ってきました(万が一朝霧高原が雨で写真が撮れないと困るのでバックアップの意味もあり。笑)。こちらは「鯉のぼり」332匹と「さんまのぼり」1匹。両方併せて東京タワーの高さ333メートルと同じ333匹だそうです。巨大「さんまのぼり」は、岩手県大船渡市の復興を応援するために始められたそうですが、私はうっかり下調べをしなかったので「巨大さんま」には、まったく気が付きませんでした(残念!)。17時以降は鯉のぼりを吊るワイヤーも、七色にライトアップされるらしいので、来年見たいと思います。

今回は、5月末の山形の化け物祭り、富山の山王祭の様子をご紹介します！

全国いろいろな風景写真も、ブログでもアップしているので、よければ是非見てください。

⇒ [ブログはこちらです。](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

多くのサラリーマンにはうれしいニュースですが、国民の祝日として8月11日が「山の日」と制定されることとなりました。今年からかと思ったら、再来年から実施ということで、がっかりしたのは私ばかりでしょうか？そういえば、各地に尾根歩きができる「〇〇アルプス」という気楽に行けるハイキングコースがあることを最近テレビで知りました。せっかくのチャンスなので、休日を上手に利用し、ワークライフバランスのとれた生活ができるよう心がけたいと思います。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp